



みんなで手を携え、支え合い、ぬくもりのある街にしていきたい。そんな思いを胸に、地域でグループで、生き生きと活動続ける人たちがいます。

先人の功績を知り足跡を学ぶ機会を提供

「新渡戸稲造・万里子(メアリー)夫妻メモリアルデイ」実行委員会

五千円札の肖像でおなじみの新渡戸稲造。「彼の業績を市民の皆さんに広く知ってもらおうと、平成十三年に活動を開始しました」と話すのは、「新渡戸稲造・万里子(メアリー)夫妻メモリアルデイ」の実行委員会(総数四十人)の委員長、佐々木晴美さんです。明治二十七年(一九〇四年)、札幌農学校の教授であった新渡戸稲造は、妻メアリーの協力の下、昼間働く子供たちのために、夜に学ぶ遠友夜学校を創設。彼はまた、後に国際連盟事務次長を務めるなど、国際的に活躍した日本人の草

分け的存在でもあります。

「私も含め、その活躍の身まで知っている市民が少ないため、記念日を設け、一人でも多くの方にその功績を広めようと思いました」と佐々木さん。昨年五月には、新渡戸夫妻に関する講演を中心とした創設の集いを開催したところ、大勢の人々が会場に足を運んでくれました。「これをきっかけに、市民グループで勉強する機会を設けたり、小学校の授業で取り上げてもらったりするなど、着実に活動の成果が表れ始めているんですよ」と、手応えを感じています。



昨年、新渡戸稲造・メアリー夫妻の孫である加藤武子さんなどを招いて、創設の集いを開きました

二回目となる今年の集いは、遠友夜学校で実際に学んだ方の話をビデオで上映するほか、先生と小学生による話し合いなどが行われます。「次代を担う子供たちには、愛と献身の精神で人々のために尽くした新渡戸稲造・メアリー夫妻の生き方を学んでもらい、それを通じて、自らの将来の目標を描いてほしい」と願う佐々木さん。今後は、子供や学生が主役となって学

習する機会を増やすなど、さらに活動内容を充実させていく予定です。

■「新渡戸稲造・万里子夫妻メモリアルデイ」の集い

日時 5月17日(土)午後1時30分～3時20分。

会場・定員 北海道大学クラーク会館(北区北8西8)。500人。費用無料。当日直接会場へ。

【詳細】北海道開発技術センター(担当・佐々木、谷口) ☎(271) 3028

広告欄